

静岡県立大学附属図書館

シリーズ 私の一冊の本

短期大学部社会福祉学科 中澤 秀一 先生

鎌田 華乃子 著

『コミュニティ・オーガナイズング ：ほしい未来をみんなで創る5つのステップ』

小鹿閲覧室 309//Ka31 英治出版

「コミュニティ・オーガナイズングとは、仲間を集め、その輪を広げ多くの人々が、共に行動することで社会変化を起こすこと」本書は冒頭のこの説明から始まります。

いま私たちの社会は、さまざまな課題を抱えています。子どもの貧困、福祉の現場での担い手不足、子育てと仕事の両立、女性や障害者・性的マイノリティの人々の権利、正規労働者と非正規労働者との格差（近年は、オーバーイーツのようなプラットフォーム労働と呼ばれる雇用によらない働き方も問題になっています）、外国にルーツがある人々の排斥…身近にも、社会や制度のひずみから生じた困りごとを抱えている人たちが存在しています。もしかしたら、あなた自身が困りごとを抱えている当事者かもしれませんね。

さて、これらの課題は誰が解決するのでしょうか。もちろん、一義的には政府や自治体、個別の企業等が取り組むべきです。しかし、これらのステークホルダーは多くの場合、市民や労働者の側がアクションを起こさなければ動いてはくれません。つまり、社会にあるさまざまな課題は、自分たちで変えようとする意思を示さなければ、なかなか解決には向かわないのです。けれども、多くの人たちは課題に気づいていても、「仕方がないこと」だと、諦めてしまい、行動できないでいます。

コミュニティ・オーガナイズング(CO)は、そんな私たちが直面している課題を解決するために編み出されたメソッド(方法・手法)です。古くは、マハトマ・ガンジーによるインド独立運動や、黒人差別撤廃を目指したアメリカでの公民権運動に、このメソッドが活用されたと言われています。現在、COはさまざまな国で、地域に根ざした草の根活動や、政策に関わるような市民運動に活かされています。最近では、コロナ禍で疲弊していた大阪府の保健所ではたらく保健師さんたちがCOを使ったキャンペーンを行い、保健師の増員を勝ち取りました。こうした活動に共通しているのは、一人の偉大なリーダーが、一人の力で全てを変えたのではなく、ごく普通の人たちが共通の価値観、目的の元に集い、さまざまなコミュニティを形成し、そのコミュニティが社会を変えるために大きな力を発揮しているところです。ポイントは、共感をもって人々を巻き込んでいくことです。

「自分でプロジェクトを始めたいんだけど、どうやったらいいかわからない」「プロジェクトを始めたのはいいものの、なかなか広がっていかないし、仲間が増えない」など悩んでいる人にはうってつけの書です。